

通知

令和7年1月28日

関係各位

2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥さん（国立大学法人京都大学 iPS細胞研究所名誉所長・教授）ら**本件誤情報の発信者**について、令和7年8月1日、日本弁護士連合会に対し、人権救済を申し立てます。

粘液糖タンパク質: ムチン

・気管、胃腸などの消化管、生殖腺などの内側にある粘液の主要タンパク質。

・表面をおおって守っている。

・納豆や山芋などのネバネバの正体でもある。

『ヒトゲノムマップ (第1版第1冊発行: 2006年3月25日)

第2版第1冊発行: 2008年10月25日)

第3版第1冊発行: 2013年3月31日)』

監修: 文部科学省 (科学技術週間 <https://www.mext.go.jp/stw/>)

資料協力: 山中伸弥 (京都大学 物質-細胞統合システム拠点

iPS細胞研究センター/再生医科学研究所)

https://jeanne.jp/cira.kyoto-u.ac.jp_2025.1.28.pdf

(理由) 植物の粘性物質を「ムチン」と呼ぶことの起源や根拠について:
「ムチン (英: mucin)」とは、明治期以降に伝来した、動物の粘液の主成分 (粘質物) を指す外来語である。

しかし、英和辞典がその語源とされる言葉「粘液 (英: mucus)」の語釈として補説「(動植物の)」を付けたことから、ムチンもまた「動植物の粘液の主成分」と誤って解された。

この誤解を広めたのは、『広辞苑』で知られる岩波書店が戦前戦後に出版した『理化学辞典』、『生物学辞典』、『英和辞典』であったが、半世紀以上も前の1970年代に訂正が行われていた。

https://jeanne.jp/suifu_court_iwanami_2023.1.23.pdf#page=5

なお、該当者については、後日、改めて通知します。
以上、よろしくお願いいたします。

では。

++++
公共メディア じゃんぬ
Common Sense, Jeanne!
<https://jeanne.jp>
++++

有限会社学術秘書（法人番号:7050002006496）
取締役社長 池田剛士（携帯:09041347927）

プレス発表資料

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

平成18年4月14日
文部科学省

ヒトゲノムマップの製作について

文部科学省におきましては、科学技術理解増進施策の一環として、科学技術週間に合わせて一家に1枚ヒトゲノムマップ「ここまでわかった!! ヒトゲノム」を製作いたしました。

今後、科学技術週間での配布等を通じて普及を図りたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

主な配布先は、サンプルとして全国の小・中・高等学校に1部ずつ配布(約4万枚)すると共に、全国科学館連携協議会または全国科学博物館協議会に加盟している科学館等(331館)を通じて希望者の方へ4月17日(月)から先着順で配布(約5万枚)します。

このほか、科学技術週間丸の内イベント等でも配布します。

ヒトゲノムマップの作製にあたっては、下記の方々及び各機関のご協力をいただきました。

監 修：文部科学省(科学技術週間 <http://stw.mext.go.jp>)

著作・発売：財団法人 科学技術広報財団

企 画：文部科学省科学研究費・特定領域研究「ゲノム」4領域

(総代表：高木利久 東京大学大学院新領域創成科学研究科)

企画協力：藤山秋佐夫(国立情報学研究所)、加藤和人(京都大学人文科学研究所/大学院生命科学研究科)

制 作：京都大学大学院生命科学研究科生命文化化学研究室(加納圭、川上雅弘、室井かおり、加藤和人)

デザイン：有限会社 グッズ

イラスト：橋本ボンセ

(お問い合わせ)

科学技術・学術政策局基盤政策課 課長補佐 山口治
専門官 長崎學

電話：03-6734-4191(直通)

03-5253-4111(内線3884, 3891)

京都大学大学院・生命科学研究科・加藤和人研究室 加納圭

電話：075-753-9244

「一家に1枚ヒトゲノムマップ」

京都大学 加納圭、加藤和人

1. 「一家に1枚ヒトゲノムマップ」制作までのいきさつ

(1) 企画趣旨、目的：

ヒトゲノムとは、私たち人間の体を作り、働かせる遺伝情報の全体のことです。2003年のヒトゲノムの完全解読終了後、現在では世界各国で何万人、何十万人のゲノムの解析が進み、ゲノムの個人差と病気のなりやすさ等との関係を調べる研究が進んでいます。また、ヒトゲノムと他の生物のゲノムの比較から、生物としての人間がどのようなものであるかを調べる研究も進んでいます。新しい医療を生み出すという意味ではもちろん、「人間を知る」という知的探求の面でも、ヒトゲノムはあらゆる人に身近なものになっているのです。

このような時代において、ゲノムとは何か、ヒトゲノムの解読が今、どこまで進んでいるのかを、日本中の人に知ってもらいたい、という思いで制作したのが、「一家に1枚ヒトゲノムマップ」です。このヒトゲノムマップが全国に配布されることで、遺伝子や遺伝についての正確な情報が伝わり、「ゲノム」という言葉の意味を理解している人の割合（15%：山梨大学・山縣然太郎教授による調査）が上がることを期待しています。リビングルームでヒトゲノムマップを見ながら親子で科学の話をするということが当たり前になれば、まさに文化としての科学が社会に根付くことにつながるでしょう。

(2)制作・著作・監修：

ヒトゲノムマップは、昨年配布された「一家に1枚周期表」の第2弾として作られたものです。

2005年9月に、文部科学省から文部科学省科学研究費・特定領域研究「ゲノム」4領域の総代表 高木利久教授（東京大学）に、ゲノムをテーマに全国配布用のポスターが作れないかという打診があり、広報委員長の藤山秋佐夫教授（国立情報学研究所）と「社会との接点」研究班担当の加藤和人（京都大学人文科学研究所／大学院生命科学研究科 助教授）が具体的な制作体制を検討しました。その結果、文部科学省監修で、加藤が担当する京都大学大学院生命科学研究科の生命文化化学研究室が受けることになり、博士後期課程1年（現在2年）の大学院生・加納圭が、研究室メンバーの協力のもと、約5ヶ月の制作期間で完成させました。その後、公的ルートからの普及を図るために、著作を科学技術広報財団に移し、無料配布終了後は有料で実費配布していただくことになっています。

プレス発表資料

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

2. 「一家に1枚ヒトゲノムマップ」制作の基本コンセプト

- (1) ヒトゲノムを大きく取り上げ、ゲノムとは「遺伝情報全体」(具体的には「22本の常染色体+1本の性染色体」)であることを理解してもらう。
- (2) 小さな子どもの時からゲノムという言葉に慣れ親しんでもらう。
- (3) 染色体、DNA、遺伝子、タンパク質の関係をきちんと理解してもらう。
- (4) 各染色体について、塩基対数、遺伝子数を記す。さらに、約1%分の遺伝子をピックアップし、染色体上での位置と通称名を記載する。その際、カラーゲンやアミラーゼといったなじみ深いタンパク質をつくる遺伝子、神経系や免疫に関わる遺伝子、生命活動の基本的な部分を担う遺伝子をピックアップする。通称名は、このヒトゲノムマップのために、その遺伝子がどのような機能をもつのか、または、どのようなタンパク質がつけられて、どのようにはたらくのかがわかるように独自に考案した。
- (5) ピックアップした遺伝子の約1割に関して詳細な解説を行う。主に遺伝子から作られるタンパク質の解説を行い、イラストや写真を出来る限り積極的に活用し、目を引くようにする。
- (6) 病気の原因となる遺伝子が知られているが、病気のために存在する遺伝子は存在していないということを理解してもらう。病気になるのは、タンパク質が変異することによって正常な機能を果たすことができなくなるためであって、〇〇病の原因遺伝子という遺伝子を持っているために病気になるという考えは誤りである。このことを伝えるため、遺伝子から作られるタンパク質の解説では、始めにタンパク質の正常な機能を書くようにする。
- (7) 同等の遺伝子(オーソログ)をもつ生物のアイコンを表示し、他の生物との共通性を理解してもらうとともに、ヒトが特別な存在ではないことを理解してもらう。
- (8) ゲノムは世代から世代へ受け継がれる際、混ざりながら伝わることやゲノムの個人差について説明する。
- (9) ゲノム解読が終了しているいくつかの生物の塩基対数、遺伝子数を表示し、研究の現状を伝えることに努める。
- (10) ゲノム研究の応用や倫理的問題への取り組みなどについての簡単な説明を加え、ゲノム研究と社会の関わりについて解説する。
- (11) さまざまな生物の写真を上部、右上、左下隅に配置し、ゲノムは生物に共通したものであることを表現する。
- (12) 扱いきれなかった情報はWeb版にて補足する。

科学技術週間の URL: <http://stw.mext.go.jp/>

ヒトゲノムマップ Web 版の URL: <http://www.lif.kvoto-u.ac.jp/genomemap/>

このようなコンセプトのもと、ピックアップする遺伝子の候補をリストアップし、その中から一般向けにふさわしい候補を絞り込んだ。各遺伝子の通称名、解説文について推敲に推敲を重ね、イラストも妥協することなく何度も何度も書き直してもらった。また、多くの議論を経て、ゲノムという言葉の意味、染色体、DNA、遺伝子、タンパク質の関係がわかるような文章、イラストを完成すること

プレス発表資料

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

ができた。ナンバーワンかつオンリーワンのゲノムの解説書の完成である。

3. 「一家に1枚ヒトゲノムマップ」の普及方法など

(1) 監修の文科省では4月下旬の科学技術週間のイベントを中心に数万枚を無料配布の予定。

(2) 公的機関の公的イベントでの無料配布目的なら、科学技術広報財団に連絡のうえ、印刷してよいことになっている。できるだけ多くのルートで各家庭に浸透していくことを願っている。

(3) 科学技術広報財団から実費販売の予定。無料配布するA1判に加え、扱いやすいA2判についても販売される。

(4) ヒトゲノムマップを解説する本(著者: 加納圭)が京都大学学術出版会から刊行される予定。また、ヒトゲノムマップがその本に付録として添付される予定。

(5) さらに詳しい情報を載せたWeb版を制作。随時追加情報を更新する予定。

(6) 制作者としての希望

この「一家に1枚ヒトゲノムマップ」を小学校高学年～高等学校、大学の副教材として採用してもらうこと。さらに教科書や資料集に組み込んでもらうこと。また、科学館等で大きなパネルを用いて展示を行ってもらうこと。このヒトゲノムマップの内容などを教えれば理科好きな子供達が増えるのではないかと期待するからである。

(7) マスコミのみなさんへのお願い

「一家に1枚ヒトゲノムマップ」の存在とその有用性などを、できるだけ広くPRして頂けるようお願いいたします。その際、Web版のPRも合わせてお願いいたします。また、産業界のみなさん方にも興味をもっていただき、普及にご協力頂けるようお願いいたします。

(8) 「一家に1枚ヒトゲノムマップ」を見た方々へのお願い

今回の「一家に1枚ヒトゲノムマップ」は第1版、細心の注意を払って制作しましたが、思い違いや誤りもあるかと思えます。もっと適した文章やイラスト案なども含めてご意見をお寄せ頂きますようお願いいたします。それらをもとにより良い改訂版を作っていきたいと思っています。

4. 謝辞

文科省、科学技術広報財団、文部科学省科学研究費・特定領域研究「ゲノム」4領域、企画・製作協力者、写真・情報提供者をはじめ、多くの方々のご協力で初めて完成したものであり、厚く御礼申し上げます。

プレス発表資料

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

<一家に1枚ヒトゲノムマップについて>

平成18年4月14日
文部科学省

平成18年度(第47回)科学技術週間にあたり、一家に1枚ヒトゲノムマップ「ここまでわかった!! ヒトゲノム」を作製いたしましたのでお知らせいたします。

WEBからPDF版のダウンロードができますので、ご自由にプリントアウトしてご使用ください。なお、ダウンロードデータにはA3判対応版のほか、A2判対応版も用意しましたので、A3用紙2枚に印刷のうえ、貼り合せてご使用ください。

また、ヒトゲノムマップには掲載できない分につきましては、一家に1枚ヒトゲノムマップ(WEB版)(<http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/genomemap/>)に詳細情報を掲載しましたので、併せてご参照ください。

※4月14日現在では詳細情報は追加されていません。随時更新される予定です。

<ダウンロード>

- ◇ 一家に1枚ヒトゲノムマップ(A3判対応版)(PDF, 4.0MB)
- ◇ 一家に1枚ヒトゲノムマップ(A2判対応版)(PDF, 4.3MB)

<WEB版>

- ◇ 一家に1枚ヒトゲノムマップ(WEB版)



<印刷物の頒布について>

科学技術週間であります4月17日(月)から全国の主要科学館等を通じて希望者にA1判を配布いたします。その際、先着順とさせていただきますので、品切れの際はご容赦ください。

それ以降につきましては、科学技術広報財団(<http://www.pcost.or.jp>)にてA1判及びA2判を実費頒布しますので、詳しくはそちらにお尋ねください。

なお、こちらから配布いたしますヒトゲノムマップは、皆さんへ普及することを目的としていますので、転売等されないようお願いいたします。

送付先

イケダ 様
FAX : 029-254-7189

送付元

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学
渉外部広報課 千原
電話 : 075-753-2039
FAX : 075-753-2094
送付枚数
6枚 (表紙1枚含む)

件名 : ニュースリリース「一家に1枚ヒトゲノムマップ」について

お世話になります。
京都大学渉外部広報課の千原と申します。

お電話頂戴した件について
当時のプレス発表資料を送付いたします。

